

## 2020年度第3回理事会 議事録

一般社団法人 日本損害保険代理業協会

日 時：2021年7月9日（金）13：00～16：50

会 場：Zoom WEB 会議

出席者：全理事数 18名、出席理事数 18名、出席監事数 2名（白石監事、津田監事）

リアル出席：金子会長、山口副会長、横山副会長、小田島副会長、小俣副会長、野元専務、小見常務

WEB出席：11理事、2監事は各事務所からWEB出席

会長 金子智明氏は、議長席につき、出席理事数の確認を行い、本理事会は定款第33条に基づき、有効に成立した旨を報告して開会を宣し、直ちに議事に入った。

### 会長挨拶骨子

熱海伊豆山地区の土石流で被災された皆さまにお見舞い申し上げます。安否不明者も多く甚大な被害となっているが、ハザードマップにも表示されていない「盛り土」に関する指摘があり、今後のリスク確認における留意点であると認識した。ニューノーマルの今、全国どこの地域でも発生し得る災害であるが、豪雨は地震に比較すれば、まだ予測ができるので、自社のホームページ、SNS、情報提供ちらし、保険会社が提供しているアプリなどをフルに活用してお客さまとリスクコミュニケーションをとり、改めてお客さまのリスクコントロールの実践を徹底していこう。

#### <6/10理事会以降の業務報告>

1.7/2(金)15時30～17時30分、業界紙各社との懇談会をWebで実施した。金融庁と47都道府県代協会長との意見交換会や特定修理業者対応に関心が集まり、情報交換を重ねた。社労士診断認定制度を活用して代理店の労務管理や健全経営の支援をすることを表明した生保会社も出てきており、連携していきたい。

2.7/8(木)16時～17時30分、損保7社・損保協会との懇談会を実施した。ワクチン職域接種の対象に代理店を含めていただいたご配慮に感謝をお伝えし、続いて、代協の取組み(仲間づくり[会員増強]、損保大学課程コンサルティングコースの受講勸奨、日本代協アカデミー、代理店賠償、経営サポートデスク等)に関する現状報告と協力要請を行った。

・本日は6つの審議事項を含め、内容が盛り沢山ではあるが、疑問点にはすべて声をあげていただき、闊達な論議をお願いする。

なお、昨日7/8(木)は損保7社・損保協会との懇談会があったため、正副会長はリアルで参加した。また、7/14(水)活力研は船曳真一郎新損保協会長の来会挨拶があるため、在京の金子会長と横山副会長はリアル参加するので、ご理解いただきたい。

### 〔審議事項〕

#### 1. 表彰者選考会議構成員の委嘱

事務局より、資料に基づいて、以下の通り提案され、審議・採決の結果、全会一致で承認された。

##### 【決定したこと】

- ・対象年度：2020年度分表彰者選考会議構成員については、表彰施行規則第7条の規則に基づき、以下の5名が選出された。

山口史朗（副会長）、春日 靖（理事）、北島香代子（理事）、中島克海（理事組織委員長）、野元敏昭（専務理事）

- ・会議開催日程：9月9日（木）11：00～12：00を予定

#### 2. 第10回日本代協コンベンションの開催

事務局より、資料に基づき、日本代協コンベンションの開催の可否ならびに開催する場合の企画案について説明および原案の一部修正提案があり、審議・採決の結果、17票の賛成により、承認された。採決保留が1票（中島理事）あった。

【決定したこと】

- ・第10回日本代協コンベンションを以下の要領で開催する。

**式典**：11/5(金)12:30-18:00 ハイブリッド開催

**懇親会**：中止

**分科会**：11/12(金)13:00-17:00 オンライン配信(録画も配信)

**特別企画「パネルディスカッション」**：11/19(金)15:00-17:00 オンライン配信(録画も配信)

緊急事態宣言下に入った場合は、11/5の式典の開催を中止する。まん延等防止措置が適用となった場合は、オンライン配信に切り替える。

- ・意見具申いただいた諸課題(【主な意見】の下線部分)については、PTを中心に検討し、9月理事会にて報告する。

【主な提案内容】

方向性を決めていかないと企画も進められないので、新型コロナウイルス感染拡大を助長しないこと、感染しないこと、させないことを大前提に、リアルとオンラインを併用しながら次につなげるイベントとして開催する。(オンライン配信1,000・録画提供)

(1) テーマ案

**メインテーマ**「これまでの10年、これからの10年を考える」

**サブテーマ** ~あなたはどんな一歩を踏み出しますか?~

(2) イベント内容

「式典」=11月5日(金)12:30-18:00・ハイブリッド開催

○開催形式：リアルとオンラインのハイブリッド開催(ホテルからオンライン配信)

会場は例年の2倍の広さを確保し、参加者数は例年と同数程度まで収容可となるが  
PTにて絞り込む

机一つに一人として相互の間隔を確保、その他ホテルと連携し感染対策を徹底

○挨拶 3名 12:30~12:50

- ・金子会長
- ・船曳損保協会長(三井住友海上社長)12:30~13:00 調整済(リアル参加)
- ・金融庁 池田保険課長依頼 (6/2 保険課に正式依頼済・リアル参加)

○功労者表彰 12:50~13:50

- ・22名想定(昨年度11名・今年度報告待ち)
- ・表彰対象者は全員招待(出席されない表彰対象者はビデオで紹介)
- ・代表挨拶は1名

○会員懇談会

- ・10回記念として基調講演を2コマ実施するため実施せず。昨年度同様に事前Q&Aで対応(丁寧に回答)

休憩 13:50~14:10

○プロローグ映像 14:10~14:30

- ・これまでの10年を映像&ナレーションで振り返る

○基調講演 14:30~17:45

- ・2部構成とし、「これからの10年」を考えるパートと「経営の軸をぶらさず変化に対応する」ことを考えるパートの2部構成とする(@90分×2 休憩15分)

オンライン配信・録画提供

【講師】 豊嶋 広氏(BS TV東京)「今後の日本社会の変化と中小企業の価値」(仮)

【講師】 望月 広愛氏(MATコンサル)「働きたくなるこれからの保険代理店」(仮)

< 確認・調整事項 >

- ・参加者人数調整
  - ・映像配信業者手配（撮影：V-Hope、配信：インプリメント）、配信数確保
  - ・MCは小田島副会長（予定）他
- 「懇談会」= 中止

【中止の理由】

- ・飲酒を伴う宴席を実施する前提で今から計画することが難しい
- ・実施する場合は例年の2倍の会場で着席方式となるが、動き回ることが難しいため、コンベンションの懇談会の意味（集い、語らい、高め合う）が薄れる
- ・保険会社社長を含め、来賓参加は流動的
- ・式典終了後、懇談会まで90分必要となるため、中宴会場3室で待機は可能だが、待ち時間が長い

< 功労者表彰対象者対応 >

- ・式典終了後の食事は実施できないため、お土産を差し上げる
- 功労表彰者で宿泊される場合はグランドニッコー（あるいは同等ホテル）を手配する
- 「分科会」= 11月12日（金）13:00～17:00

○式典出席者等も視聴できるように翌週金曜日に分科会を開催し、オンラインで配信（録画提供）

- ・時間割制の3部構成（各75分）とし、各会員のニーズに応じて選択視聴（全編視聴も可）
- ・講師はオンライン配信・録画OKの方を選定

【講師】 栗山 泰史アドバイザー（確定）

【講師】 アイ・ステージ 飛松社長（経営品質を軸に組織の質を磨き、働きやすい職場環境づくりに取り組む代理店）愛知県碧南市 東京海上日動代申（予定）

【講師】 リプラス 櫻井社長（社員と組織の質を高め、独自の能力を向上させ続ける代理店）北海釧路市 AIG代申（予定）

< 確認・調整事項 >

- ・配信場所、・配信業者選定

10回目特別企画「パネルディスカッション」= 11月19日（金）15:00～17:00

○開催形式：リアル開催のオンライン配信（録画提供）

分科会まで学んで自身が考える企画とするため実施日をさらに翌週とする

○「あなたはどんな一歩を踏み出しますか？」というサブテーマに応える形で、分科会まで視聴して得た気づき、今後の自社のビジョンや夢、実現のための戦略などについて、若手（30～40代）の経営者によるパネルディスカッションを行う

- ・PTメンバーの中からヘッドを選び、全国から意欲的な取り組みを行っている若手経営者3名に協力いただき、自社の戦略に基づいて論議してもらい、視聴者の気付きにもらう
- ・変化に俊敏に対応しながら前を向いて取り組む若手経営者の姿を通して、各会員のチャレンジ精神を刺激する = 「一歩を踏み出す」
- ・コーディネーター：粕谷AD（予定）

【パネラー】 ワイズラボ 豊社長（PTメンバー）（確定）

【パネラー】 Miriz 渡辺社長（宮城代協）（予定）

【パネラー】 東京保険サービス 大和社長（広報委メンバー・東京代協）（予定）

【パネラー】 未定

< 確認・調整事項 >

- ・配信場所（会場場所）、・配信業者選定

### (3) 付帯条件

○式典実施日が緊急事態宣言下に入った場合は、11/5の式典の開催を中止する。

緊急事態宣言の判断時期により、旅費・交通費等にキャンセル料が発生する場合は日本代協で負担する。

○まん延等防止措置が適用された場合は、リアル参加を取りやめ、会場からオンライン配信のみで開催する。分科会はオンラインで配信、パネルディスカッションはパネラーを同一会場に集めたいので時期をずらして開催する。

○未定の部分はPTメンバー論議を踏まえた会長承認で進める。

#### 【主な意見】

- ・リアル参加者(功労表彰者、参加者、ホスト)にはワクチン接種や陰性証明を要件としてはどうか。
- ・リアル参加者の式典後の集団での懇親は控えていただくことを日本代協として明言すべきである。
- ・各自治体からも要請が発出されることが多いので、当該ガイドライン遵守も必要である。
- ・デルタ株、ラムダ株が確認されており、リアル参加者数は最小限とするべきである。
- ・エフェクトを利用した配信で、オンライン配信のみとしてはどうか。
- ・緊急事態宣言やまん延等防止措置については、数日前など迫った時期の発出となるため、混乱が生じる。開催方式の変更についての判断時期を明示する必要があるのではないか。
- ・PTメンバーには負担がかかるが、いろいろな状況を想定しながらプラン企画をお願いしたい。

〔資料 審3.〕第10回コンベンション企画案(P.1-3)

### 3. 事業計画推進状況

2021年度日本代協・各代協加盟代理店等のPR企画案について、野原広報委員長から説明、提案があり、審議・採決の結果、全会一致で承認された。

#### 【決定したこと】

- ・2021年度の広報PR企画は「毎栄」の企画案を採用し、制作に入る。

#### 【主な説明・意見】

2021年度の広報PR企画

- ・広告代理店4社(ユーティワイ企画、千葉テレビ放送、共同広告社、毎栄)によるPR企画のプレゼンコンペを6/15(火)に実施した。コンペ開催に当たっては、仕様書を配信するだけにとどまらず、イメージ合わせのための各社との個別Web会議などを実施して臨んだ。
- ・各社からは、そのノウハウやネットワークを駆使した企画を提案いただいたが、以下の理由から広報委員会としては毎栄の企画を推挙することとなった。

なお、本企画案では、各代協における収録などは行わないので作業負荷はかからない。

<毎栄 提案概要>

「認知獲得」、「内容理解」という2つのミッションに対し、最適化した演出で2種類の動画を使い分けた企画案で、YouTubeでのターゲットを絞った広告発信(TrueView インストリーム広告)による動画再生回数向上にも期待できる。

映像コンテンツ：

.WEB CM (30秒×4本)

「歴史上の人物たちの不安」(紫式部：自動車保険、織田信長：火災保険、ペリー：海外旅行保険、聖徳太子：給与や家賃に備える保険)

歴史上の人物にまつわる事象をフックとし、保険の新規加入・見直しを検討するには

「保険を選ぶ前に代理店を選ぶ、という考え方。」や「損害保険トータルプランナーが力になること」を訴求する。

・営業アシスト動画（3分程度×1本）

営業の合間時間を有効利用し、「保険を選ぶ前に、代理店を選ぶ。」ことが大切な理由、日本代協加盟代理店は保険を選ぶ上で価値ある存在であること「損害保険トータルプランナー」とは、についてイラストとナレーションを用いてわかりやすく説明する動画も制作する。

・レポート（評価）:

- ・「認知拡大」の指標として YouTube 視聴回数
- ・「理解促進」の指標としてランディングページ訪問者数

・WEB 情宣・オプション:

・YouTube インストリーム広告

YouTube 上で、ユーザーの動画視聴前に配信できるため、動画そのものの視聴率が高く広告対象に関心があるユーザーにダイレクトに配信でき、広告効果を最大限に高める。

・ランディングページ（LP）への誘引

保険への関心が高まっている可能性のある方に広く網をかけ、更に詳しく知りたい方は LP で理解を深めていただく。

その他:

・持ち歩ける広報ツール

営業アシスト動画の QR コードをシール印刷し、名刺などに貼り付けて活用する。

・動画の二次使用について

日本代協、各都道府県代協での二次使用可

< 選定理由等 >

- ・わかりやすく、アイデア、内容、情宣方法が正統派の提案だった。
- ・キャッチ（歴史上の人物がしゃべる）で食いつきが良かった。
- ・キャラクターが歴史上の人物のため、スキャンダル等不祥事リスクやパブリシティ権の問題による視聴期間制限がなく、長く使える。
- ・<確認事項> ランディングページは日本代協 HP に直でできないのか  
QR コードは自分たちで作成すれば費用削減できるのではないのか  
特定修理業者対策、ハザードマップ活用の動画制作を検討できないか

< 意見 >

- ・多額の予算を投入している事業であり、緊張感を絶やすことなく、制作にあたってほしい。また、PR 動画以外の方法についても今後検討してほしい。
- ・レポート（評価）において視聴回数目標はどう置いているか。  
= 857,143 回の視聴、7,142,857 回の表示回数を目標に置いている。

〔資料 審 1.〕 2021 年度広報 PR 企画案（P.4-5）

#### 4. 令和 4 年度税制改正に関する要望

事務局より、資料に基づき、令和 4 年度税制改正に関する要望案について説明があり、審議・採決の結果、全会一致で承認された。

##### 【決定したこと】

- ・令和 4 年度税制改正に関する重点要望項目として「火災保険等に係る異常危険準備金制度の充実」を提出する。

税制上の措置である火災保険等に係る異常危険準備金制度について

- 1) 積立率を現行の6%から10%も引き上げること
- 2) 洗替保証率を現行の30%から40%に引き上げること

【主な内容】

- ・この数年は、日本代協独自の要望書は提出しておらず、製販一体となった要望として損保協会の税制要望実現を後押しする形式をとってきたが、昨今の自然災害リスクに対して、安定的に火災保険商品を提供し続けるためには、保険会社の保険金支払余力の強化が不可欠であるため、販売側からも強力な要請が必要と考え、要望書案を作成した。今後、政連と連携し、石原伸晃先生、鈴木馨祐先生、野田毅先生に後押しを要請するとともに、金融庁への陳情、与党税調への陳情を行い、勝ち取っていききたい。
- ・現行の積立率6%（法律上2%+令和3年度までの経過措置4%）でも十分な準備金残高が確保できない危機的状況にあることを踏まえ、10%への引き上げを要望する。さらに残高の上限となる洗替保証率もニューノーマルの時代に即した40%への引き上げを要望する。現行の30%は業界全体で約6,000億円水準であり、十分とは言えない残高である。
- ・（参考：行政の動向）
  - ・金融庁は「火災保険水災料率に関する有識者懇談会」を設置した。損保各社は、水災リスクに応じた火災保険料率の細分化の検討を進めているが、保険料負担の公平性と保険の相互扶助性のバランスなどについて、社会的影響、消費者目線なども含めた幅広い観点から検討を行うことが重要と考え、細分化のあり方や取組推進上の留意点について中立的な立場で論議を行う。
  - ・宮城県では、新年度予算に2350万円を計上して損保会社と連携して2021年度中に5000件の新規加入を目指している。申請期限は2022年2月28日までとなっているが、状況をみて22年度以降も継続を検討することとなっている。検討の契機は、一昨年台風19号被害で、生活再建支援金は「大規模半壊」以上が対象で、浸水しても「半壊」以下だと支援が受けられず、線引きによる格差が問題視され、議会でも指摘が相次ぎ、保険の有無により、自宅の補修や再建のスピード、ローン負担に大きな差が出たことであった。地震保険や水災補償付き火災保険に新たに加入する場合、保険料の1/2を上限に、建物は最大3000円、家財は1000円を補助する仕組みを設けた。

〔資料 審4.〕令和4年度税制改正に関する要望（P.6-8）

## 5. 日本代協アドバイザー制度規則の改定

事務局より、資料に基づき、日本代協アドバイザー制度の改定（定数設定の削除）について、提案があり、審議・採決の結果、日本代協アドバイザーの委嘱が全会一致で承認された。

【決定したこと】

- ・規則の第5条（定数）の条文を削除する。（第6条以降を繰り上げる。）

【主な内容】

- ・当初は、費用が伴うことも想定して10名以内と定数を規定していたが、基本的に無報酬であり、定額の費用はかかっていない。今後も優れた見識、専門性、人格識見を有する日本代協の支援者をより多く増やしていく必要があるため、定数条文を削除することとしたい。

〔資料 審5.〕日本代協アドバイザー制度規則の改定（P.9）

## 6. リスクマネジメント講座検討PTの設定

事務局より、資料に基づき、代協会員専用「リスクマネジメント講座」開設タスクフォースの立

ち上げについて、提案があり、審議・採決の結果、全会一致で承認された。

**【決定したこと】**

- ・2021年7月に「リスクマネジメント講座」開設のためのタスクフォース(TF)を立ち上げ、講座内容の検討を始める。
- ・構成メンバー：TFリーダー 松本企画環境委員長  
TFメンバー 大城拓氏(沖縄)、加嶋大二氏(熊本)、大川淳氏(やまがた)、  
粕谷智氏(代理店経営サポートデスク長)
- ・スケジュール：10月開講を目指し、開講後のフォローアップも行う。
- ・検討した講座概要については、9月理事会に提案する。

**【主な内容】**

- ・2021年度事業計画にて「P.6チャンネル間競争力強化策の検討・提示」、ならびに、「P.12代協会員の経営支援として当該講座を開講する」ことが決まっている。機動力を発揮できる会長直轄の小集団での検討が妥当であることも共有していたので、今回タスクフォースを立ち上げる。
- ・「商品売り」から脱却し、顧客のリスクに対する真のニーズに応え、顧客本位を徹底するため、またチャンネル間競争の激化に対応する差異化のポイントとなり、成熟化する国内マーケットで生き残る一つの鍵となる中小法人開拓力の向上のため、本研修は不可欠なものと考えた。
- ・2021年3月実施中企庁・企画環境委員会委員アンケート結果  
リスクマネジメント研修は必要である・・・中企庁95%・企画環境委員98%  
実施できていない・・・90%と認識と現状に大きなギャップがある。
- ・講座体系(案)
  - (1)動機付けリスクマネジメントの必要性認識 導入セミナー(YouTube活用)
  - (2)基礎講座：保険提案とリスクマネジメントとの関係 リアル・オンラインセミナー
  - (3)実践講座：実践的ノウハウの習得 日本代協アカデミー特別講座+外部活用
  - (4)定着講座：継続的な取り組み支援とアップデート 独自体系構築+外部活用、 は無料、 ・ は一定受講料等をいただくイメージ

[資料 審6.]「リスクマネジメント講座」開設タスクフォースの立ち上げ(追加資料P.1-2)

**〔報告事項〕**

1. 各理事からの報告

地域担当理事ならびに委員会担当理事から、事業計画の進捗状況について、報告があり、確認、共有された。

(1) <地域担当理事>

- ・損保各社の指標を研究する「代理店資質向上委員会」の立ち上げ、定例となった財務局・損保協会・代協の懇談会の企画、次世代を担う会の支部単位から代協単位の活動への拡張など事業計画の遂行を確認した。
- ・アクションシートには具体的な動きが見える形での作成を依頼しているが、実現していない。本シートでコミュニケーションを図っていく。活動の活性化の状況は、有益なセミナーの企画・開催とアクセス数・参加者数、Webを含む総会のアクセス数・参加者数をチェックすることにより課題が見えてくる。「魅力度アンケート」を実施し、会員のニーズ・実態を把握し始めた代協も出ている。中島組織委員長の各地の組織委員会へのWeb参加は情報と熱を伝えていくのに有効であると実感している。

- ・成島 ADV、BCP、事業継続力強化計画認定などのセミナーを積極的に開催している。若手育成、強い代協の復活、未来塾、TP にスポットを当てた新聞広告、自転車条例など事業計画の遂行を確認した。
- ・6代協に「できたこと、できなかったこと、2021年度の重点目標」のアンケートを実施し、課題を共有した。京都代協は2022年に60周年、兵庫は事業継続力強化計画認定で1冠獲得を目指し、理事全員が取得すると宣言あり、個別支援を行っている。  
(参考) 京都の提携に関する活動はこれから始めるとのこと。概要は以下のとおり。  
京都市では自治体として初となる「損害保険に関する連携・協力についての包括連携協定」を締結した。災害被害は拡大傾向にある中、補償する保険の加入率は低い傾向にあり、市民の早期の生活再建に資するために、業界団体と連携し、防災知識の普及啓発、損害保険への加入促進、災害発生時の市民への円滑な損害保険の請求手続きの支援を行うこととなった。京都代協、京都保代協組、損保協会(近畿支部京都損保会)と協定を締結した。特定修理業者対策にもつながる仕組みである。
- ・ぼうさい探検隊入賞者によるセミナーの実施、県単位の社労士会との業務提携、損保会損害調査部会での情報交換などの独自の取り組みを行っている。
- ・事業計画の遂行に関しては、着手を早くすることで、成果につながっている。三冠獲得に向けた意思結集・目標確認ができ、各会長の要望に応えて、BCP、賠償、アカデミーなどのセミナー実施や8支部長5委員長あて研修の実施を通して、他県の好取組事例を共有し、一体感を醸成しながら取り組んでいく。

〔地域別委員会別資料〕事業計画アクションシート(地域別委員会別資料 P.1-17)

事業計画アクションシート(追加資料 P.46-50)

「損害保険に関する連携・協力についての包括提携協定」の締結(追加資料 P.36-38)

## (2) < 委員会担当理事 >

### 企画環境委員会

- ・松本委員長より、諮問・推進事項に関する取組報告があり、共有された。取り組むことが明確にできてきたので、気を抜くことなく推進に当たる。
- ・共通化・標準化の検討：東京代協から上がった具体的な規定解釈のギャップについて情報を集める。
- ・不公正募集のモニタリング：新たな事案4件中、ディーラー案件が3件という状況。  
また、保険金請求サポート業者や特定修理業者への対応については、集めた情報をリスト化し、損保協会と連携している。
- ・チャネル間競争力強化の検討・提示：本業にリンクするこの取組に注力する。目標も明確におけたので、トップラインを上げていく。  
・事業継続力強化計画認定の20%取得(2,000社)・強化計画支援企業2,000社(認定代理店が企業顧客1社に実施)  
6/15 中企庁を訪問し、動画作成およびセミナー講師の依頼を行った。8月に4回企画。YouTubeで「ニーズ喚起」、「説明」、「申請手続」の3本の動画を作成する予定。  
・社労士診断認証制度で、宣言企業3,000社、経営労務診断1,000社、適合企業500社を目指し、社労士会と連携したセミナーの開催等を検討する。  
6/9 社労士会連合会と包括提携を締結、制度活用企業の「金融・保険」での抽出依頼を行った。8月に「動機付け映像」、「認証取得映像」をYouTubeにアップする。9月から各

代協にセミナーを実施する。各代協では、社労士会と提携し、料金表作成を進めてほしい。

- ・リスクマネジメント講座の開設については、審議事項で説明のとおり。
- ・7/14(水)活力研に参加し、認識の共有化と自律的な解決に向けて、対話を行う。

〔地域別委員会別資料〕企画環境委員会報告シート(地域別委員会別資料P.18)

#### 教育委員会

- ・石川委員長より、諮問・推進事項に関する報告があり、共有された。
- 6/18の第2回委員会を起点にPT活動が活性化し、directコミュニケーションが拡大している。
- ・日本代協アカデミーは今年10月が2度目の更新時期となる。案内メールやチラシを作成し、次年度を見据えた有益なコンテンツを盛り込めるようギアを上げて取り組んでいる。6/21に3度目のシステムダウンが起きたが、アクセル集中によるメモリ不足が原因であることが判明した。対策としてはハイスpekシステムへの導入・移管が考えられるが、コストが伴うため、日企社と中長期的な視点で協議を行う。
- ・損保大学課程コンサルティングコース教育プログラムの代替策制作に取り掛かっている。東京代協にディスカッションメンバーを選出いただき、6つのセミナー講義動画、5つのディスカッション動画の収録を済ませ、編集に入っている。レポート評価体制・受講者管理体制も構築の目途が立った。7/12の週内には受講者あてに「選択肢に関するお知らせ」を配信し、体制の整備が見通せた時点で、「修了に関するお知らせ」として選択肢を示し、検討いただくこととする。

<4つの選択肢>

1. 「代替策」を希望する。(2021年度以降のセミナー受講は希望しない。)  
= 「セミナー受講」に代わる「代替策」により「修了」を目指す。  
今後設営されるセミナー(集合形式またはWeb形式)への参加は希望しない。
  2. 「代替策」を希望する。(2021年度以降のセミナー受講を希望する。)  
= 「セミナー受講」に代わる「代替策」により「修了」を目指す。  
今後設営されるセミナー(集合形式またはWeb形式)への参加を希望する(教材提供、事前課題取組が必要)
  3. 「代替策」を希望せず、教育プログラムの受講を継続する。  
= 今後設営予定(時期未定)のセミナー(集合形式またはWeb形式)受講により「修了」を目指す。  
(教育プログラムの在籍期間が2年を迎える場合は、在籍可能期間を延長予定です)
  4. 「代替策」を希望せず、教育プログラムの受講も継続しない。  
= 受講料(69,980円)については「全額返金」します。
- ・テキスト等の教材の改定、校正においてもハザードマップや特定修理業者の件を改定に反映させるために、PTメンバーで意見交換を続けている。
  - ・セミナーのWeb化の検討についても、オペレート業者をインソース社に絞り込み、詳細の打ち合わせに入っている。

〔地域別委員会別資料〕教育委員会報告シート(地域別委員会別資料P.19)

#### 組織委員会

- ・中島委員長より、諮問・推進事項に関する報告があり、共有された。
- ・3月から、日本代協組織委員会開催後2週間以内に開催する各ブロックの組織委員会に

委員長や三役が Web 参加するという取り組みを展開しているが、各ブロックの熱量を肌で感じることができている。

情報の伝わり方にバラツキがあることも確認できたので、PDCA を回していく。(例えば、賠償研究会の取り組みや勉強した内容についてはすべてのブロックで案内されていないなど)一方で、未入会会員のリストアップと対応記録を次世代でも利用できるように作成することに取り組んでいるが、ブロック単位で共通化しようという動きが進んできた。

(千葉のリスト、京都・北海道エクセルなど)各代協のリストを共有することにより、紹介運動の展開にも活用できる。また、非会員あてのちらしなども北海道、京都、沖縄、熊本で作成したものが全国に流通し、さらに改良させる動きになっている。共通作成で単価を抑えることもできている。

- ・支部強化の取り組みについては、地域担当理事からも活性化の好事例のみならず反省材料なども収集いただきたく、支部の動きの把握をお願いしたい。
- ・7/13 に全国一斉組織委員オリエンテーションを Web 開催する。金子会長の挨拶、大阪代協の山中会長の代協の存在意義のプレゼン、代協の歴史、ベンチマークとなる代協を選定したうえで全員参加型のグループ討議などを行う。
- ・代理店賠償の推進に関しては、まずは組織委員会で年 6 回代理店賠償勉強会を開催し、委員の知識・スキルを高め合う。基本的補償、他社賠償との比較、セミナー開催上の留意点、事故事例に学ぶ、未然防止策、今後の補償を準備している。Web でも提供予定。
- ・仲間づくり推進では、統一フォームで PDCA を回すことを重要視して取り組んでいる。千葉代協のリストアプリが好評、京都・北海道のエクセルシートが他県でも活用され出している。
- ・代理店実態調査の実施に関しては、4/27 の金融庁保険課長との意見交換会へ向け、独自でアンケートを実施した代協があったが、現場の生の声であるフリー欄の設定に関しては各代協アンケートで集約いただくこととし、5 年後に比較ができる内容についてアンケート質問を作成する形で作成する。9 月理事会で披露できるように集中討議を行う。

〔追加資料〕組織委員会報告シート(追加資料 P.5-6)

#### CSR 委員会

- ・廣瀬委員長より、諮問・推進事項に関する報告があり、共有された。
- ・防災・減災の具体的な取組の検討・推進に関しては、7/27 の PT で論議する。
- ・継続活動の効果的展開の検討についても、取組方法を見直し中である。
- ・ぼうさい探検隊の取組みでは、7/5 現在 25 団体が申込済となった。損保協会と連携し、タウン誌・子供専用新聞等への掲載で取組みの勧奨を行っている。家族単位の活動に関するオリジナルちらしの作成・配布や損保協会ホームページ掲載済のタブレット活用動画を活用して推進いただきたい。2021 年のマップ提出締切は 11/4 (木)である。
- ・BCP セミナー：実施済 17 代協、開催予定 13 代協、未実施 17 代協(含む検討中の 1 代協)という状況で、未実施代協へ早期開催を働きかける。
- ・「ハザードマップ活用基本ガイド」勉強会は 7/27 の 15 時から実施する。

〔地域別委員会別資料〕CSR 委員会報告シート(地域別委員会別資料 P.20)

#### 広報委員会

- ・野原委員長より、諮問・推進事項に関する報告があり、共有された。
- ・2021 年度 PR 企画制作に関しては、審議事項での説明のとおり。  
2020 年度 PR 企画動画については、各地で災害発生等がある度にリツイートが月単位で

100人位で増えている。動画のサムネイルを変更し、視聴者を飽きさせない工夫を実施している。

- ・ホームページの活用については、各代協事務局職員 Web 研修のテーマの一つに「HP・SNS ガイドライン」(大和副委員長が講師)を設定して周知を図る。ブロック協議会に参加できないことが多いので、ブロック協議会では地域担当理事に、各委員会ルートでは、各委員長理事にご支援をお願いしたい。

- ・「みなさまの保険情報」の利用拡大に向けた具体的推進については、認知度向上を図るため、お客様の声を集める取り組みを行っているが、4月号アンケート収集は16件と実が上がっていない。

『みなさまの保険情報』活用のご案内(会員向け) Youtube 動画のブロック協議会、各代協役員会、支部会、オリエンテーションなどでの活用を推進する。

<https://www.youtube.com/watch?v=ZQI3wClxUAI&t=236s>

理事で活用されていない方は内容を再確認いただき、お客さま対応のルーティンに取り込んでいただきたい。

[地域別委員会別資料] 広報委員会報告シート(地域別委員会別資料 P.21)

## 2. 前回理事会(2021.6.10)以降の主な業務報告

### (1) 「仲間づくり推進」6月末状況のご報告

#### 【主な内容】

- ・6月累計で入会77店、退会207店(内廃業・合併167店)、合計130店(前年度は入会77店、退会230店で合計153店)、累計で11,214店となった。
- ・代申会社別では、損保ジャパン50店、東海日動42店、三井住友14店、あいおい12店、AIG・日新5店、大同2店など減少の一方で、共栄・chubbの±0店、セコム・その他+1店と維持・増加した。
- ・代協別では京都が入会目標を突破し、1冠を達成した。奈良75%、大阪・山口50%、北海道・香川・長崎40%、沖縄38%、石川・熊本33%と続いている。一方で入会が「0」の代協が19代協(去年は18代協)ある。
- ・専業換算組織率では、全体では47.8%。京都80.3%、香川79.2%、高知71.2%、鳥取70.7%、滋賀・徳島70.6%、奈良70.4%の7代協が70%を超えている。

[資料 報1.] 2021年度 仲間づくり推進6月末状況(1.代協別、2.代申別)(追加資料 P.7-8)

### (2) 日本代協アカデミーの展開

#### 【主な内容】

- ・6/30時点のID登録状況は、968店(前年6末841店)・6,751ID(前年6末5,305ID)である。
- ・「目指せ、三冠王!」の取組みにおける目標としては、各代協に純増ID数を設定しているが、今年度は、和歌山61.5%、鹿児島51.9%と2代協が目標達成率50%を超えている。
- ・10月に2度目の利用手続きの更新を迎えるが、改めて連絡する。更新の案内ちらしに、新たなコンテンツも案内できるようにPT打合せを重ねている。

[資料 報2.] 日本代協アカデミー利用者登録数(追加資料 P.9)

### (3) 損害保険トータルプランナー認定状況等

#### 【主な内容】

## 損害保険トータルプランナーの認定状況等

4 月末時点	損害保険トータルプランナー	17,573 名 ( + 24 名 )
	認定有効者数	15,266 名 ( 3 名 )
	代理店検索機能登録	4,335 店 ( + 5 店 )
	損害保険プランナー	89,243 名 ( + 213 名 )
	有効認定者数	37,465 名 ( ± 0 名 )
	ゴールドカード保有者	7,227 名 ( + 21 名 )

## 認定バッジ申込者数推移

代協単位の団体購入も数代協で行われ、6 月 17 日現在 1,222 個が購入されている。  
購入数の多い代協：大阪 119、静岡 91、北海道 85、東京 69、愛知 68、福岡 47、  
神奈川 40、福井 39、京都 31、広島 30。

〔資料 報 2.〕1. 損保トータルプランナー認定状況等 5 月末状況 ( P.10-11 )  
2. 認定バッジ申込状況 ( P.12 )

## ( 4 ) 代理店賠償「日本代協新プラン」の更新対応

### 【主な内容】

- ・募集ツールの配信：2021 年 8 月 6 日 ( 金 ) 一斉発送予定
- ・募集締切日：2021 年 9 月 3 日 ( 金 )
- ・補償内容の変更なし、保険料に関しても割引・割増の制度を含めて変更なし。

〔資料 報 4.〕2021 年度「日本代協新プラン」パンフレット ( 追加資料 P.44-45 )

## ( 5 ) 代理店経営サポートデスク相談状況

### 【主な内容】

- ・サポートデスクによる個別相談は、代理店のための、代理店の立場に立ったよろず相談窓口の機能を果たしており、代協の価値と考えている。現在、電話相談は水曜日と木曜日の 10 時～16 時まで開設しているので、活用について情宣をお願いする。また、代理店全体に共通する課題に対する支援策の提供の一つである BCP セミナーについては順調に開催できている。日本地図資料は最新版に差し替え、提供する。また、事業継続力強化計画認定取得に関しては、各代協で盛り上がりが見られるが、現在、「申請ガイド」と「申請書の書き方ガイド」を作成中である。近日中に配信する。

〔資料 報 5.〕代理店経営サポートデスク相談明細 ( P.13-14 )

## ( 6 ) 業界紙懇談会実施予定 ( 7/2[金]15 時 30 分～WEB 会議 )

### 【主な内容】

- ・日本代協事業計画の概要、重点的な取組みを報告し、最近の業界を取り巻く諸課題について、幅広い意見交換を実施した。保険研究所、保険毎日新聞社、新日本保険新聞社から各 1 名が参加された。

〔資料 報 6.〕業界紙懇談会の開催案内 ( P.16 )

## ( 7 ) 損保 7 社・損保協会との懇談会実施報告 ( 7/8[木]16 時～17 時 30 分 WEB 会議 )

- ・損保 7 社・損保協会との懇談会：7/8 ( 木 ) 15 : 30～開催した。東京海上日動と損保ジャパンの部長が初参加であった。代理店が代協に加入すると、正確な情報に基づいて、それぞれが将来ビジョンや経営のあり方を考え、お客さま本位の経営を目指すようになり、保険会社としても大きなメリットがあることを理解いただき、代協の取組みを後押しいただけるよう要請

した。

〔資料 報 7.〕 損保 7 社・損保協会懇談会の開催案内（P.17-18）

#### （ 8 ） 2021 年度第 1 回活力研の開催

##### 【主な内容】

- ・ 論点メモとして、保険募集現場で代理店が、納得感がないと感じる諸問題への対応策の論議を行う。1.代理店から寄せられる保険募集現場の問題点の確認、2.コミュニケーションギャップが生じる根本的な背景は何か、3.課題の自立的解決に向けて、業界と代協がどう連携して取り組むかが論議テーマである。
- ・ 民・民の問題は、民間で解決していくという健全かつ自立的な解決のサイクルをどう作り上げていくかを議論したいと考えている。
- ・ 6月10日金融庁と損保協会との意見交換会にて金融庁栗田監督局長が保険会社の全社長に対して発言した内容を踏まえ、「活力研」を課題解決に向けた論議の場として有効活用することを共有する。
- ・ 「損保会社と代理店との関係は、多くの代理店は損保会社と良好な関係を築いているが、両者間のコミュニケーションギャップによって様々な課題も生じていると認識している。こうした代理店からの声を受け止めてどう対応するか、業界共通の課題があるかも含めて各社としても議論を行い、必要に応じて日本損害保険代理業協会や個々の代理店との対話につなげるなど、課題解決に向けた一層の取組をお願いしたい。」との発言があった。活力研での議論の後押しとなる発言である。

〔資料〕 2021 年度第 1 回活力研論議要メモ等（追加資料 P.12-26）

### 3 . 情報提供

#### （ 1 ） 業界動向最新情報

##### 【主な内容】

- ・ 金融サービス仲介業者向けの総合的な監督指針についてのパブコメ結果が公表された。「高度に専門的な説明を必要とするサービス」に多くの意見が寄せられている。内閣府令等及び告示は 6/2 付けで公布され、監督指針と併せて 11/1 から施行・適用されることが決まった。供託保証金は最初の事業年度 1,000 万円、以降は 1,000 万円に年間手数料の 5% を上乗せした額とされた。ビジネスモデルを発表した会社はまだなく、情報が開示された段階で問題点等を共有したいと考えている。代協会員でも戦略的に住宅ローンや投資信託の取り扱いのため参入を計画しているところもある。攻めと守りの両面で情報収集と提供を行う。11 月からスマホ等で損害保険等を販売する新たな事業者が出てくるということ認識してほしい。
- ・ 6/10、携帯代理店の評価制度について、公正取引委員会が「独禁法上、問題の恐れ」との結論を出した。消費者に必要以上に高額なプランを勧める不適切営業を助長することにも懸念を示したものだが、損保会社と代理店の関係においては、やや異なる点があるが、営業成績を偏重したランクづけに対して手数料を増減することは消費者の不利益につながる可能性があり、損保でも共通する点である。携帯電話業界と損保業界を直ちに同列で論じることはできないが、「他山の石」とすべき点があるので、今後の動向に留意したい。
- ・ 代理店賠償の保険金支払いで紹介したい事案が 2 件ある。1 件は約 3,000 万円の支払いとなった案件で、重説誤りでも事務ミスでもなく、保険金として支払ったものを代理店に請求した初の事例である。保険会社の引受方針に反した契約締結を行ったことに対して、1.5 億円の請求

が保険会社から代理店にあったが、和解で3,000万円となったもの、もう1件は「そんぼADR」に持ち込まれたて申立人と保険会社との間で和解になった案件であるが、保険会社から代理店に求償があり、約500万円の支払いとなったものである。

- ・FD原則の採択について、金融庁は厳しい姿勢をみせている。FD原則を既に公表し、金融庁のホームページへの掲載を望む代理店については、6月末までに様式に基づき取組方針・KPIや実施状況等が、金融庁が示すFD原則にどうリンクしているかについて報告することになっていたが、差し戻しになった代理店が多く、再提出を見送った代理店もある模様である。言葉だけの顧客本位は通用しない。スローガンだけではだめで、具体的に業務にどう落とし込み、どう定着させ、どう検証し、どう次につなげているかという一連のことができていないと顧客本位の業務運営ができていないとは言えないことをしっかりと認識することが重要だ。

- [資料 報9.] 1. 東京海上HD,MS&ADHDの職域ワクチン接種対象(P.21-22)  
2. SDft 新規顧客獲得営業ツール紹介 Web セミナー案内ちらし(P.23)  
3. 0615 保毎記事 金融サービス仲介業(P.24)  
4. 0622 保毎記事 日本代協通常総会(P.25)  
5. 0610 日経記事 携帯代理店の評価制度「独禁法上、問題の恐れ」(P.26-27)

## (2) 損保協会新体制ならびに協会長ステートメント(6/30)

### 【主な内容】

- ・新会長(船曳 真一郎 三井住友海上火災社長)はじめ新役員の略歴が紹介された。  
なお、船曳協会長は7月14日(水)15時に来会される予定である。  
会 長 船曳 真一郎(三井住友海上社長) 新任  
副会長 西澤 敬二(損保ジャパン社長) 新任  
副会長 織山 晋(日新火災社長) 新任  
副会長 星野 次彦 新任  
専務理事/岩崎 賢二、常務理事/坂本 仁一 重任、常務理事/伊豆原 孝 新任
- ・金融庁の人事では、氷見野長官、栗田監督局長、池田保険課長は留任。元保険課長の岡田大氏は秘書課長に栄転し、佐藤寿昭課長補佐(損保担当課長補佐、元関東財務局理財部金融監督第4課長)がFD原則を主管する総合政策局に統括官で異動された。

- [資料 報10.] 1. 損保協会新体制(追加資料P.33-34)  
2. 日本損害保険協会 広瀬協会長のステートメント(2021.06.10)(P.28-33)  
3. 日本損害保険協会 船曳協会長のステートメント(2021.06.28)(追加資料P.27-32)

## 4. その他

- ・7/21 締め切りで「代協活動の現状と課題」提供方法に関するアンケート調査を実施している。事業計画に定めていた件であるが、現在の冊子提供では約460万円の費用がかかっている。紙の使用量、コスト、携帯の利便性等の観点からデータ提供の検討が必要と考え、各代協の意向を調査している。

[資料 報11.] 「現状と課題」提供方法に関するアンケートのお願い(P.34)

- ・StateFarm社のTVコマーシャル「RobotAgent」の動画を紹介した。  
事故現場に駆け付けた人型ロボットだが、現場で壊れて役に立たなかった光景の動画で、裏返して、お客さまの不安に真に寄り添えるのは人間で「人の価値」でお客さま対応を突き詰めるという姿勢を打ち出した45秒CMを出している。

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=Zkcutf36SkU>

## 〔監事講評〕

白石監事から以下の通り監事講評があった。

- ・ 審議事項、報告事項ともに適正な運営がなされたものと判断する。
- ・ 野原広報委員長が説明された日本代協・各代協加盟代理店等のPR企画について、映像コンテンツをビジュアルに駆使して、Web上で消費者に対して、損害保険トータルプランナーが保険選択をする上で重要な存在であることを積極的にPRしていくことで、有意義であると感じた。存在意義や地位の向上につながるものになると思う。
- ・ 火災保険の異常危険準備金制度の充実については、現状は自然災害の増大により火災保険の収支は長期的にも悪化の状況にある。保険会社でも自動車保険では利益が上がっているが火災保険では赤字が続いている。健全な市場を確保するという観点から税制上の優遇措置を拡大していくことは必要、一方で消費者の保護のために火災保険料の大幅な値上げが恒常的に行われることが誘発されないように、また収支改善を目的とした代理店手数料の引き下げにつながらないよう監視していく必要がある。
- ・ リスクマネジメント講座検討PTの立ち上げについては、法人のお客さまに関しては、単に個別の商品の単品売りをするのではなく、お客さまの事業リスク全体を把握したうえで、人物金賠償を含んでリスク分析をしたうえで費用対効果の高いバランスのとれた保険ポートフォリオを提供構築していくことは有益な試みと思う。実現していただき、リスクマネジメントの普及につながることを祈念している。

以上

< 諸会議開催予定 >

2021年07月～2022年02月のスケジュール (案)

損保会館の予約状況ならびに会議体のあり方の改定状況によっては、日程の変更がありますので、予めご了承ください。

2021年度	7月2日(金)	15:30～17:30 17:45～20:00	業界紙懇談会(会長、広報担当副会長、広報委員長) 懇親会(リアル又はWEB)	日本代協 会議室 WEB会議Zoom開催
	7月8日(木)	13:00～15:00	正副会長と全理事との意見交換会	WEB会議Zoom開催
		15:00～15:30 16:00～17:30 17:45～20:00	(7社懇 事前打合せ:正副会長、教育・組織委員長) 損保7社懇談会(正副会長、教育・組織委員長) 懇親会(リアル又はWEB)	日本代協 会議室 WEB会議Zoom開催
	7月9日(金)	10:30～12:00	正副会長打ち合わせ	日本代協 会議室 WEB会議Zoom開催
		13:00～17:00	第3回理事会 テーマ:通常議題	
	7月14日(水)	15:30～18:00	活力研(正副会長、企画環境委員長)	日本代協 会議室
		18:15～20:30	懇親会(リアル又はWEB)	WEB会議Zoom開催
	9月9日(木)	10:30～12:00	正副会長打合せ	リアル:日本代協 会議室 又はWEB会議Zoom開催
		13:00～17:00 18:00～	第4回理事会 テーマ:通常議題 損保協会との懇談会(日本代協主催)(正副会長と2理事)	
	9月10日(金)	11:00～17:00	第1回ブロック長懇談会 第2回全国会長WEB懇談会	日本代協会議室 ハイブリッドWEB Zoom開催 中止
		17:00～18:00	特別セミナー(株式会社IB 請求できる保険に気づけるアプリ)	
		18:20～19:30	同上懇親会(有志・会費制)	
	10月8日(金)	9:30～10:45	正副会長打ち合わせ	日本代協 会議室
		11:00～17:00	第5回理事会 テーマ:通常議題	
11月5日(金)	13:00～20:00	第10回日本代協コンベンション	グランドニッコー東京 台場	
11月6日(土)	10:00～12:00	第10回日本代協コンベンション分科会	損保会館、ホテルジュラク他	
12月15日(水)	10:30～12:00	正副会長打合せ	日本代協 会議室	
	13:00～17:00	第6回理事会 テーマ:通常議題		
12月16日(木)	11:00～17:00	第2回ブロック長懇談会	損保会館 大会議室	
	17:00～18:00	セミナー	会場 未定	
	18:10～19:30	同上懇親会(有志・会費制)		
2月10日(木)	10:30～12:00	財務委員会	日本代協 会議室	
	13:00～17:00 18:00～	第7回理事会 テーマ:臨時総会議案、通常議題 損保協会との懇談会(正副会長と2理事)		

以上をもって、議長は理事会の終了を宣し、16時50分閉会した。

なお、WEB会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態が保たれ、終始異状なく議案の審議を終了した。

上記の決議を明確にするため、この議事録を作成し、出席会長（代表理事）及び出席監事がこれに記名押印する。

2021年7月9日

議長                      会長                      金子 智明                      印

議事録署名人              監事                      白石 雅一                      印

議事録署名人              監事                      津田 文雄                      印